

令和4年2月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和4年2月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸圏域で八戸市営バスと南部バスが導入する地域連携 IC カード「ハチカ」の販売とサービスが2月26日から始まります。

ハチカは、八戸圏域を運行する路線バスの運賃支払いや定期券、交通ポイント付与といった地域独自サービスの機能に加え、Suica（スイカ）エリア及び Suica と相互利用を行っているエリアで利用可能な乗車券や電子マネーなどの機能が集約されているカードです。

バス運賃をハチカのチャージ料金で支払えば、一般は3%、中学生以上の学生らには12%の交通ポイントがそれぞれ付与されます。

◆ハチカの詳細はこちらをご覧ください（八戸公共交通ポータルサイト）

https://www.city.hachinohe.aomori.jp/section/public_transport/hachica/

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 2月号 レポート

令和4年1月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸圏域の食文化や加工品 米国情報誌で紹介
(2)	八戸市農業経営振興センター LEDを活用した栽培試験実施
(3)	第3期八戸市中心市街地活性化基本計画 八日町・番町整備追加へ

【産業】

記事	概要
(4)	ブルーカンパニー（八戸） 屋形船送迎付き無料乗船会実施
(5)	八戸中央青果の物流子会社 市内仲卸会社2社と合併へ
(6)	八戸ブイヤベースフェスタ 2年ぶりに開催
(7)	青森県攻めの農林水産業賞 収益力強化部門 特別賞に「イチカワファーム」（八戸）
(8)	八戸市第3魚市場荷さばき施設A棟 2021年度稼働率5.6%
(9)	立教大生 観光ビジネスプロジェクト 八食活性化策を提案
(10)	八戸前沖さば ブランド認定終了 2014年以降最低数量
(11)	八戸酒造、斗南丘牧場（むつ） ヨーグルトリキュール開発

【地域】

記事	概要
(12)	観光甲子園 八戸聖ウルスラ学院高 決勝大会へ
(13)	高校生ビジネスプラン・グランプリ 八戸高専 全国ベスト20
(14)	スタンフォード大学（米国） オンライン講座 中尾さん（八戸高1年） 参加へ
(15)	東北電力など LED防犯灯 八戸市に寄贈
(16)	八戸総合卸センターで「冬の朝市」開幕
(17)	八戸テレビ 情報番組にAIアナウンサー

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	箱根駅伝 駒澤大・田澤（八戸出身） 堂々区間賞
(19)	芸人・じゅんせーさん（八戸出身） お笑い野球の「二刀流」に挑戦
(20)	全国高校スケート・アイスホッケー選手権 八戸、青森、南部で開催
(21)	山車組結集 八戸三社大祭移動型山車制作
(22)	根本（八学大）「ASハリマアルビオン」入団 八戸出身、初の女子プロ選手に

【行政】

記事	概要
(1)	<p>八戸圏域の食文化や加工品 米国情報誌で紹介</p> <p>八戸市は八戸圏域の企業の商品を米国に売り込むため、現地のフリーペーパーへの商品掲載やPR動画作成、現地の営業代行者による販売促進活動など、コロナ禍ならではの輸出拡大支援事業を行っている。このほど、米国シアトルの「チン・ミュージック・プレス社」が隔月で発行する生活情報誌「ORIGAMI」の2021年9、11月号に、八戸圏域の魅力や圏域内で事業を行う9つの企業や団体が取り上げられた。同誌は、主にアジア圏の芸術文化や料理、風土などを紹介しており、米国北西部の企業に1万部が無料配布されている。八戸市の食文化や、企業が生産する加工品などが写真付きで数ページにわたって紹介されており、コロナ収束後の販路拡大につなげたい考え。</p>
(2)	<p>八戸市農業経営振興センター LEDを活用した栽培試験実施</p> <p>八戸市農業経営振興センターが、発光ダイオード（LED）を活用した作物の栽培試験に取り組んでいる。八戸農協や生産者の依頼を受ける形で2019年に栽培試験を始め、当初はイチゴとカンパニユが対象で、今年から新たにトルコギキョウも加えた。カンパニユは、赤色のLED電球を照射した結果、冬場の厳しい寒さの中でも無加温で生育が促進されることが判明。トルコギキョウについては、赤色LEDの照射で成長が抑制された。また、イチゴに緑色LEDを照射した場合はダニ被害の防除につながるなど、徐々に効果が明らかになっている。同センターの試験結果を受け、三八地域では、収穫期の調整や作業効率の向上などにつながるとして、LEDを導入する生産者が増加している。</p>
(3)	<p>第3期八戸市中心市街地活性化基本計画 八日町・番町整備追加へ</p> <p>八戸市が第3期市中心市街地活性化基本計画（2018年12月～2023年3月）に、民間主導で進む八日町番町地区まちづくり事業を新たに加えることが明らかになった。番町地区整備で新たに追加するのは、市道番町線無電柱化事業、八日町番町地区まちづくり事業の2事業。市美術館の完成を踏まえ、番町整備事業を同計画に位置付けることで、中心街の活性化につなげるのが狙い。また、市は今回、2事業に加え、市中心街ストリートデザインビジョン事業など4事業も同計画に加える方針で、追加により、同計画で進めるのは計72事業となる。</p>

【産業】

記事	概要
(4)	<p>ブルーカンパニー（八戸） 屋形船送迎付き無料乗船会実施</p> <p>八戸港内で屋形船「新井田丸」を運航する八戸市のブルーカンパニーは、観光庁の補助事業の採択を受け、「屋形船送迎付き無料乗船会」を実施している。同市のポストタクシーと連携し、市中心街のホテルから同市湊町の船着き場まで利用者を無料送迎するほか、無料で屋形船に乗船することができる。屋形船は平日昼と週末夜に運航し、送迎などを合わせて所要時間は2時間半～3時間。燕島や臨海部の工場夜景、魚市場などを巡航し、昼の部は2千円で郷土料理、夜の部は3千円で飲み放題付きの郷土料理が付く。同社は今回の実績を踏まえ、来年度から本格実施する考え。</p>
(5)	<p>八戸中央青果の物流子会社 市内仲卸会社2社と合併へ</p> <p>農産物の卸売会社「八戸中央青果」は1月17日、物流サービスを手掛ける子会社の「まるはちビジネスサービス」と、同市内の仲卸会社「第一青果」及び「太陽青果」が合併し、新たな仲卸会社「第一青果」を設立すると発表した。3社の2021年3月期の売上高の合計は126億円で、東北地方でも指折りの仲卸会社が誕生する。個々に築き上げてきた販路やノウハウを生かしながら、物流コストの削減や営業力の向上を図り、市中央卸売市場全体の販売力強化も目指す。</p>

<p>(6)</p>	<p>八戸ブイヤベースフェスタ 2年ぶりに開催</p> <p>八戸水産業界有志の団体「八戸ハマリレーションプロジェクト（HHRP）」は2月1日から3月末までの2か月間、「八戸ブイヤベースフェスタ2022」を実施している。八戸市のレストラン11店が参加し、地元産の魚介類を4種類以上使った特製スープを提供する。昨年はコロナ禍を踏まえPRなどを自粛したため、「フェスタ」と銘打つのは2年ぶり10回目となる。なお、HHRP、JR東日本、八戸市が共同開発したフェスタ公認の缶詰「八戸ブイヤベーススープ」が発売されており、家庭でも手軽に本格的な味を楽しむことができる。缶詰は、都内では八戸都市圏交流プラザ8baseで取り扱っている。</p>
<p>(7)</p>	<p>青森県攻めの農林水産業賞 収益力強化部門 特別賞に「イチカワファーム」（八戸）</p> <p>青森県の「2021年度攻めの農林水産業賞」の受賞者が決まり、県南地方関係では収益力強化部門の大賞に「ナチュラルファーム」（おいらせ町）、大賞に次ぐ特別賞に「イチカワファーム」（八戸市）が選ばれた。攻めの農林水産業賞は、収益力の強化や地域活性化などに励む個人・団体を表彰している。イチカワファームは、上質な赤身が特長の肉用牛をブランド化し、地元飲食店に提供することで売り上げを飛躍的に伸ばしたことが評価された。</p>
<p>(8)</p>	<p>八戸市第3魚市場荷さばき施設A棟 2021年度稼働率5.6%</p> <p>八戸市水産事務所は1月21日、市第3魚市場荷さばき施設A棟の2021年度の水揚げ実績を公表した。数量は1165トンで金額は9826万円。第2回改善計画（2021～2023年度）導入に伴い目標の数量を3万1200トンから2万970トンに引き下げたものの、目標数量に対する水揚げ量を示す稼働率は、5.6%と低水準に終わった。2021年度からサバに加えイワシも対象としており、内訳はサバが382トン（目標1万170トン）、4782万円、イワシはマイワシのみ783トン（同1万800トン）、5043万円だった。年間実績は、稼働が始まった2012年度以降で数量、金額とも5番目。ただ、稼働日数は14日間、利用した隻数（延べ数）は33隻で、いずれも最多だった。</p>
<p>(9)</p>	<p>立教大生 観光ビジネスプロジェクト 八食活性化策を提案</p> <p>八戸市の八食センターと連携協定を締結する立教大学観光学部は1月22日、八食の活性化に向けた「観光ビジネスプロジェクト」の2021年度の最終報告をオンラインで発表した。二つの学生チームが八食の課題を分析した上で新たな施策を提案。Aチームが提案したのは、地元漁協などと連携した「八食漁師飯」プロジェクトで、八食を主会場とした漁師飯イベントを皮切りに、レストランなどでのメニュー化、食材とレシピがセットになった「ミールキット」での販売へ結びつけるアイデアを披露した。Bチームは、八戸北インター工業団地などの企業をターゲットに、地元食材を使った健康的な弁当を宅配するサービスを提案した。八食は学生のアイデアを今後の事業展開に生かす方針。</p>
<p>(10)</p>	<p>八戸前沖さば ブランド認定終了 2014年以降最低数量</p> <p>八戸前沖さばブランド推進協議会は1月26日、今季の「八戸前沖さば」の認定終了日を昨年12月25日に水揚げした分までと発表した。同10日に始まった認定期間は16日間と過去最短。今季は主力の大中型巻き網船の漁獲が不発で数量も激減し、834トンと、前季の1割にも届かなかったほか、データが残っている2014年以降最低となった。1月に入っても認定の要件を満たす粗脂肪分量を含む魚体の水揚げを確認できず、1か月ほどさかのぼって終了日を決めた。</p>
<p>(11)</p>	<p>八戸酒造、斗南丘牧場（むつ） ヨーグルトリキュール開発</p> <p>八戸酒造は、むつ市の農畜産物加工業・斗南丘牧場が製造するヨーグルトを活用したリキュール「Bonsurb（ボンサーブ）」を開発し、1月28日から青森県内で限定発売した。八戸酒造の主力ブランド「陸奥八仙」とヨーグルトをブレンドしており、まろやかな甘味とコメ本来のうま味を味わえるのが特長。ヨーグルトは香料と酸味料、安定剤を使用していないほか、新鮮な風味を生かすため火入れをせず、とろりとした口当たり仕上げた。商品名はラテン語の「おいしい」との意味で、開発には青森銀行のビジネスマッチング制度を活用した。アルコール度数は5%で、720ml入り1870円（税込み）。県内の酒店など26カ所で1500本限定で販売された。</p>

【地域】

記事	概要
(12)	<p>観光甲子園 八戸聖ウルスラ学院高 決勝大会へ</p> <p>高校生が3分間の動画で地域の魅力などを伝えるコンテスト「観光甲子園」で、八戸聖ウルスラ学院高英語科2年生のチームが、「SDGs修学旅行部門」で全国上位5チームが出場する決勝大会に駒を進めた。コンテストは修学旅行部門と日本遺産部門に分かれており、予選の書類審査に約300チームが応募。20チームが準決勝へ進み、動画を制作した。同校は八戸地域を3泊4日で巡るプランを紹介。館鼻岸壁朝市から始まり、いかだ、裂織体験などに挑戦する、持続可能な開発目標（SDGs）の考えに合った体験型ツアーを企画した。約3カ月かけて取材や動画制作を行い、英語の字幕を付ける工夫もした。決勝大会では新たに制作過程を伝えるプレゼン動画を提出する。</p>
(13)	<p>高校生ビジネスプラン・グランプリ 八戸高専 全国ベスト20</p> <p>日本政策金融公庫主催の高校生ビジネスプラン・グランプリで、八戸高専産業システム工学科マテリアル・バイオ工学コースの2年生8人によるチームが、全国3087件（353校）の応募の中から上位20プランに贈られる「セミファイナリスト」に輝いた。同コンテストは、若者の創業マインド向上を目的に、全国の高校生と高専生を対象に毎年実施されている。八戸高専は、地元の特産品を使って人の役に立つ商品を作ろうと、「あおり藍」の抗菌・消臭効果とホタテの貝殻の吸湿性を活用した、乾燥剤を製造・販売するプランを作成。商品概要のほか、販売・広告の方法、顧客のターゲット層や必要な経営資源などを、ビジネスプランシートにまとめて提出した。</p>
(14)	<p>スタンフォード大学（米国）オンライン講座 中尾さん（八戸高1年）参加へ</p> <p>世界屈指の名門大学として知られる米国のスタンフォード大学による、日本の高校生を対象としたオンライン講座に、青森県立八戸高1年の中尾ひとみさんが参加する。講座は同大の「SPICE（スパイス）」と呼ばれる国際・異文化プログラムで、毎年春と秋の2回実施。選抜された高校生約30人が月2、3回、オンラインの授業を受講する。2月14日から6月末まで全て英語で行われ、同大教授や世界の最前線で活躍する専門家から、米国の社会と文化、日米関係などについて日米双方の視点から学ぶ。</p>
(15)	<p>東北電力など LED防犯灯 八戸市に寄贈</p> <p>東北電力ネットワーク八戸電力センターとコアテック八戸営業所は1月17日、八戸市に発光ダイオード（LED）防犯灯20基、設置工事一式を寄贈した。同センターは1965年から寄贈を開始しており、市への寄贈は計535基となった。LED防犯灯の設置は同営業所が担い、田向や吹上など市内計7地区に新設する。</p>
(16)	<p>八戸総合卸センターで「冬の朝市」開幕</p> <p>八戸市卸センター1丁目の八戸総合卸センターHOCコネクで1月23日、「冬の朝市」が開幕した。同市の館鼻岸壁朝市と同じく、湊日曜朝市会が運営。新型コロナウイルスの影響で来場者が減少し、売上げが落ち込んだ館鼻岸壁朝市の出店者の収入確保を目的に昨年より実施し、今年で2年目となる。1～2月は営業していなかった館鼻岸壁朝市を通年で楽しめるようにし、冬場の観光を盛り上げようと今年も実施を決めた。2月27日まで毎週日曜に開催する。</p>
(17)	<p>八戸テレビ 情報番組にAIアナウンサー</p> <p>八戸テレビ放送が、AIアナウンサー「荒木ゆい」を活用した情報番組を放送している。AIアナウンサーは、情報提供サービスの「Spectee」（東京）が開発し、情報・通信業の「ソニーマーケティング」（同）が販売する音声読み上げサービス「荒木ゆい」で、全国のテレビやラジオで採用されている。荒木ゆいは、約10万件のニュース音声などを機械学習しており、人間に近い自然な発音やアクセントで読み上げることができる。八戸テレビ放送では、毎週土曜午前11時半から放送している情報番組「HTV週間トピックス」（YouTubeでも配信）で採用している。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	<p>箱根駅伝 駒澤大・田澤（八戸出身） 堂々区間賞</p> <p>第98回東京箱根間往復大学駅伝第1日は1月2日、往路が行われ、駒澤大学2区の田澤廉（八戸市出身）が1時間6分13秒の区間賞を獲得した。各チームのエースがそろった最長区間（23.1キロ）に2年連続で起用された田澤は、トップと39秒差の2位でたすきを受けると、7.1キロすぎでトップに躍り出た。その後も大きくペースを落とすことなく、2位に1分4秒差、区間歴代4位のタイムで3区にたすきをリレーした。往路優勝は青山学院大学で、駒澤大学は3位だった。</p>
(19)	<p>芸人・じゅんせーさん（八戸出身） お笑い野球の「二刀流」に挑戦</p> <p>東京都内を中心に活動する結成6年目のお笑いコンビ「スレンダーパンダ」のじゅんせー（本名・野崎純世）さん（八戸市出身）が2022年、野球の「さわかみ関西独立リーグ」でプロ生活をスタートさせる。じゅんせーさんは、青森県立八戸西高、流通経済大学で野球に汗を流し、一方で、2016年に現在の相方である木谷カレーさんとお笑いコンビを結成し、活動していた。そうした中、同リーグの「堺シュライクス」オーナーで同郷の松本祥太郎さんが、コンビにインターネット生配信での実況役を依頼したのがきっかけで、じゅんせーさんは同球団のトライアウトを受験。最終6巡目の獲得選手に滑り込んだ。今後、選手寮がある堺市を拠点とし、お笑いライブのときだけ上京する、お笑いとお笑いプロ野球の二刀流に挑戦する。</p>
(20)	<p>全国高校スケート・アイスホッケー選手権 八戸、青森、南部で開催</p> <p>八戸、青森、南部の青森県内3市町を会場とする第71回全国高校スケート・アイスホッケー選手権（スケートインターハイ）の開始式が1月17日、YSアリーナ八戸で開かれた。県内で全3競技を開催するのは2014年以来8年ぶり。今大会には43都道府県の選手団約1400人が参加し、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、1月21日まで完全無観客で実施された。スピードスケートでは、女子団体追い抜きで八戸西が県高校記録を約3秒更新する快走で5位入賞を果たした。また、女子の下村璃々（八戸西）が1000メートル8位、1500メートル7位となり、県勢女子の個人2種目入賞は1999年（長野）の濱中喜子（当時光星）以来23年ぶりの快挙となった。</p>
(21)	<p>山車組結集 八戸三社大祭移動型山車制作</p> <p>新型コロナウイルスの影響で八戸三社大祭の山車運行が2020年、2021年と2年連続で見送られた中、「はちのへ山車振興会」が手掛ける移動可能な組み立て式の山車の制作が山場を迎えている。移動型山車は、台座や装飾品のパーツなどを分割してトラックで運搬できるようにし、現地で組み立てられるのが大きな特長。制作者の技術継承も兼ねながら、全27の山車組が力を合わせ、「オール山車組」で取り組んでいる。題材は八戸にも数々の伝説が残る「義経北行伝説」。山車は3月末に完成予定で、4月下旬から市中心街のマチニワで展示する。</p>
(22)	<p>根本（八学大）「ASハリマアルビオン」入団 八戸出身、初の女子プロ選手に</p> <p>八学大女子サッカー部のMF根本ひかる（八戸市出身）が今春、女子サッカーなでしこリーグ1部「ASハリマアルビオン」（兵庫）に入団する。根本は小学校入学前にサッカーを始め、中居林小、第一中、聖和学園（宮城）を経て八学大でプレー。両足からの正確なパス、強烈なシュートが持ち味で、昨季は主将として東北地域大学リーグ初優勝に貢献し、全日本大学女子選手権にも出場した。ASハリマアルビオンは、女子サッカーリーグの2部に相当する「なでしこリーグ1部」に所属し、昨季は12チーム中7位だった。同市出身者として初の女子プロサッカー選手が誕生した。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 松橋 大輔 [主幹] 川村 幸男 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。